児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和　8年　3月　6日

公表：令和　8年　3月２８日

事業所名　　にこにこ園

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	2	環境を整えて、視覚的な刺激を少なくした部屋内の活動スペースがとれるように、整理整頓し収納できるものは収納している。また、視覚的にも刺激を少なくする為、戸棚を活用している。スタッフが誘導することで子どもたちがそれぞれのスペースを確保して遊ぶことができている。死角を減らし、環境整備を整え、活動に向かいやすく整備している人数あった広さである	引き続き整理整頓と収納の徹底を行い、活動スペースを最大限確保する。死角の解消と視覚的刺激の軽減を継続的に見直し、より安全で集中しやすい環境を維持する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	1	非常勤のスタッフを配置することで、常勤スタッフの休みも取りやすくなっている。職員が場を離れるときは声掛けをして子供に目が届くようにしている。未就学でも、年齢が低いお子さんが多いので、人物の配置を多くしている子供の人数にあったスタッフの人数	非常勤スタッフの適切な配置を継続しつつ、年齢の低い子どもへの対応を強化するため、職員配置の見直しを定期的に行う。特に低年齢児が多い時間帯の配置を重点的に検討する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	1	刺激を減らし、集中しやすい環境に整えていっている身支度などを行う部屋、活動を行う部屋など分けることで分かりやすい空間になっている。また、マークなどを活用することで視覚的にも分かりやすい空間になっている。活動時に座る場所に番号を貼っておくことで自分の席がわかりやすくなっている。マークやイラストでわかりやすく伝える配慮がされている。玄関からの入室の際には、バリアフリーにしてつまずかないようにしている。わかりやすく、マットを引いて玄関と廊下の場所を線引きしていたり、デイルームもわかりやすくしている。自分の荷物の置く場所、準備で必要なものはマーク等で分かりやすくしてある	視覚支援（マーク・イラスト）の活用をさらに充実させ、すべての子どもが自分の場所や手順を理解できる環境を整備する。バリアフリー対応の継続的な点検と改善を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	0	清掃・消毒は毎日行い、清潔に注意を払っている。収納スペースを活かし、極力物を置かないようにしているので、活動しやすく支援を行いやすい空間になっている。体を動かす部屋と集中して取り組む、動と静の部屋の使い分けができている。フローリングで床材も柔らかいものにし、転倒しても怪我しないようにしている。また、失敗した際やおやつを食べこぼしした際にも掃除がしやすいような材料を床材として使用している。毎日掃除をし清潔感を保っている	毎日の清掃・消毒の徹底を継続し、感染症予防に努める。動と静の活動スペースの使い分けをさらに明確にし、子どもが安心して活動に取り組める環境を維持・向上させる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	1	todoリストの活用、毎日のミーティングによりPDCAサイクルが行いやすくなっている。日々のTODOリストによって自分のやるべきことが見える化されている。特に活動を行う際の打ち合わせや活動の反省の時に、PD CAサイクルを回し失敗などを反省し、次に改善できるようにしている毎日todoリストを用いて自分のするべきこと振り返りを書き出している	PDCAサイクルを活用した業務改善をさらに定着させる。TODOリストの振り返りを全スタッフで共有し、個別対応が必要な場面での部屋・スペースの活用方法を明確化する。
	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	0	3	保護者へと、評価の必要性を説明し協力していただいている。また保護者様の気持ちを客観的に見ることができ、職員が気が付いていなかった点などをフォローすることができている。自己評価表の結果は社内で共有し、改善に用いている。保護者の意見を元にできる限り行動してる	全職員がPDCAサイクルに参画できるよう、ミーティングの場を充実させる。TODOリストの活用をさらに徹底し、改善目標の達成状況を定期的に確認・共有する仕組みを強化する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	2	全体に向けての会議や日々のミーティングなど、業務改善に繋げやすい環境になっている。打ち合わせ時に前日の反省や共有事項を伝えることを行っている。日々打ち合わせの際にいろんな意見を言える環境を整備している打ち合わせを毎日実施し共有している	保護者評価の結果を定期的に全職員で共有し、具体的な改善策に落とし込む仕組みを整える。保護者の意見を迅速に業務改善へ反映させるためのフィードバック体制を強化する。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和　8年　3月　6日

公表：令和　8年　3月２８日

事業所名　　にこにこ園

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	2	4	第三者評価を行っていない。第三者評価は行っていない。アドバイスを貰い次に繋げている	第三者評価の導入を検討し、外部の視点から事業所の強みと課題を把握する機会を設ける。 日々のミーティングでの意見共有をさらに活性化し、職員が意見を言いやすい環境づくりを推進する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	0	0	障害特性理解など様々な研修があり、知識向上の土壌が整っている。全体での研修を受け、日々の業務や子どもへの関わりに活かすことができている。支援の質の向上だけでなく、社会人としての質の向上を目的とした研修も行っている。また、保護者対応の研修も行い、それぞれの職員の役割立ち位置が正確に把握できるような研修も取り入れている。毎月研修があり色んな知識を得ている	第三者評価の実施に向けて具体的な計画を立て、評価結果を業務改善に活用できる体制を整える。外部評価の結果を職員全員で共有し、改善目標を設定する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	3	毎月、5領域に沿った内容で活動の提案及び決定が行われている。月々職員同士で話し合いながら、次の月の活動プログラムを考えている。また、次の活動の目標も考え、それに基づいて細部にわたってプログラムの編成をしている。毎日打ち合わせで共有している	研修内容を記録・蓄積し、学んだ知識を日々の支援に活かせるよう振り返りの機会を設ける。 新入職員向けの研修体制を整備し、全職員の資質向上を継続的に図る。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	7	0	0	スタッフ全員参加のミーティングを行い、ニーズ及び課題の検討を行なっている。組み立てられた個別支援計画をさらに検討するミーティングも行い、適切化を図っている。複数の職員に子どもの様子を聞いて計画が作成されている。保護者からの聞き取りの部分とデイでのお子さんの様子を踏まえ、客観的観点からそのお子さんのアセスメントを行うことを心がけている。計画書でその子のニーズに合わせて計画を立てている	支援プログラムの公表方法を見直し、保護者や関係機関が内容を確認しやすい形で情報提供を行う。5領域に基づく活動内容の充実を図り、プログラムの質を継続的に向上させる。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0	2	ミーティングで全員が必ず確認し、検討を行い個別支援計画の作成を行なっている。日々の打ち合わせでパートの方からも意見をもらい多職種で連携できるよう心がけている。作られた資料を元に目を通し次の支援に繋げている	アセスメントの精度向上のため、複数の職員による観察記録の蓄積と分析を強化する。保護者との懇談内容を計画作成に反映させる手順を標準化し、客観的なニーズ把握を徹底する。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	1	スタッフ全員がかならず目を通し、支援のバラつきを無くしている。内容を共有し、子どもの課題を知った上でかかわりに活かすことができている。課題などを共有し、皆で支援の方向性を考えている。その子に合わせてサポートしている	児童発達支援管理責任者を中心に、全職員が計画内容を深く理解した上で支援に当たれるよう、定期的な検討会議の充実を図る。パート職員も含めた多職種連携の強化を継続する。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	3	共通のアセスメントシートの利用、検討会議などでアセスメントの強化を行なっている。自社独自のアセスメントツールを利用している。何ができるか何ができないか見つつ考え活動に活かしている	個別支援計画の共有方法を改善し、全職員が最新の計画内容を常に確認できる仕組みを整備する。計画に沿った支援が実践されているかを定期的に確認し、支援のばらつきを解消する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	1	主に児発管が行っているが、適切な設定がされている。複数のスタッフで話し合いを行い、支援の方針が設定されるという過程になっている。未就学の利用者さんが主なのでライフステージに合わせてその子に合わせたサポートを重視している	標準化されたアセスメントツールの活用を拡充し、子どもの発達状況をより客観的に把握できる体制を整える。インフォーマルなアセスメントと合わせて総合的に評価する手順を確立する。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和　8年　3月　6日

公表：令和　8年　3月２８日

事業所名　　にこにこ園

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	0	ミーティングを行うことで、チームで組み立てを行なっている。活動担当者は打ち合わせ時に不安な点を共有したり助言を求めたりして全体で考えることができている。月の予定を立てる際も同じ活動が行われないような工夫がされている。曜日によって偏らないようにしている。意見を出し合い考えている	本人支援・家族支援・移行支援・地域支援の4つの観点を計画に明示し、ガイドラインに沿った支援内容の充実を図る。計画の具体性を高め、支援目標の達成度を評価できる仕組みを整える。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	1	毎月のテーマや季節に沿って組み立てを行なっている。季節のものを取り入れたり、行事やイベントのものを取り入れたりしている。カレンダーで視覚的に被らないよう確認している。音楽活動、体を動かす運動、創作活動、戸外活動など様々な活動をしている	月次の活動プログラム立案会議をさらに充実させ、全職員の意見が反映される仕組みを強化する。5領域のバランスを意識したプログラム編成の継続と、立案プロセスの記録化を進める。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	1	バランスのよい配分になるように気を付けている。小集団又は個別の療育を組み合わせているその子に無理のない支援をしている	季節・行事・子どもの興味関心に応じた多様な活動を継続的に取り入れる。カレンダー管理による重複防止を徹底し、音楽・運動・創作・戸外など各領域の活動バランスを定期的に見直す。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	0	ミーティングや情報共有ツールにより、スタッフが役割などを事前に確認している。毎日打ち合わせが行われている。注意する点や活動のねらい、スタッフの配置、前日の振り返りや共有事項を確認して全体で話し合うことができている。どのようなことがおこるか？最悪の事態になった場合はどのように対処すればよいかを話し合っている毎日の打ち合わせで共有している	個別活動と集団活動の組み合わせ方を定期的に評価し、各子どもの発達段階に合わせた最適な支援形態を検討する。小集団・個別療育の効果を記録し、計画の改善に活かす。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	1	情報共有ツールの活用をしている。翌日に振り返りとして反省や気になったお子さんの様子を共有し、今後の支援に活かすことを目的とする話し合いができている。その日のうちに共有できることは共有し次の日には全体の共有を行ってる活動担当が振り返りそれについて意見をしみんなで振り返る	毎日の打合せ内容を記録・蓄積し、チーム連携の質を継続的に向上させる。役割分担の明確化と緊急時対応の確認を打合せの定型項目として定着させる。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	0	情報共有ツールへのメモや録画されている映像の確認などを行なっている。業務日誌の中の、活動の反省や特記事項の欄に記入することで、お子さんの課題やスタッフの反省が見える化される。それにより次回の活動時に反省を踏まえた活動内容を設定できる。スタッフみんなで話し合いながら記録を客観的に記載するようにしている業務日誌を用いて記録し改善している	振り返りの内容を記録として残し、次回の支援改善に確実に反映させる仕組みを強化する。活動担当者の振り返りを全員で共有し、多角的な視点からの改善策を検討する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	1	検討会議を行い、適切にモニタリングを行なっている。職員でケース会議を行っており、振り返りや、共有ができている。スタッフやご家族に情報をききながら情報を更新してモニタリングを行い、計画を見直している。見直しを行い新たな計画書を作っている	業務日誌の記録内容の質を高め、支援の検証・改善に活用しやすい形式に整備する。記録の客観性を保つためのガイドラインを作成し、全職員が統一した基準で記録できる体制を整える。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	2	主に児発管や専門職が行っている。児発管か専門職が参加している上司の話を聞き的確なサポートに心がけている	定期的なモニタリングの実施サイクルを明確にし、計画見直しの判断基準を統一する。保護者・スタッフ双方からの情報収集を強化し、より的確な計画改訂を行う体制を整える。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	1	定期的に連絡をとることで、情報の共有を行い、支援の連携を図っている。園からの申し送りを共有できている。他事業所や保育園さんと連携している。情報共有している	子どもの状況を最もよく理解した職員がサービス担当者会議に参画できるよう、参加体制を整備する。会議での情報共有内容を事業所内で確実にフィードバックする仕組みを強化する。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和　8年　3月　6日

公表：令和　8年　3月２８日

事業所名　　にこにこ園

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0	3	情報共有により、連携をとっている。常に情報共有は行っている内容を照らし合わせ話をしている	保健・医療・教育等の関係機関との連携を強化し、定期的な情報共有の機会を設ける。連携先機関のリストを整備し、緊急時にも迅速に連絡が取れる体制を構築する。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	0	4	書類をまとめ提出するなどで情報の共有を行なっている。先方さんから聞かれた場合に情報共有を行っている共有している	保育所・幼稚園等との情報共有をさらに積極的に行い、移行支援の質を向上させる。インクルージョンの観点から、地域の子どもたちとの交流機会の拡充を検討する。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	1	5		小学校・特別支援学校との情報共有の機会を積極的に設け、支援内容の引き継ぎを円滑に行う体制を整備する。就学移行支援のマニュアルを作成し、全職員が対応できるようにする。
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	1	1	5		
	29	地域の他質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	0	1	6		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2	1	4	困っている点などを書類にまとめ、保護者様を介して助言などを受けている。現在は行われていないもうけている	
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	1	3	3	直接交流することはない。イベントなど機会があってもいいかもしれない。行われてはいない。イベントの際に関わる時がある	地域の児童発達支援センターとの連携を強化し、定期的なスーパーバイズや助言を受ける機会を設ける。イベントや研修会を通じた交流を積極的に推進する。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	0	1	連絡帳の活用や電話や面談にて共通理解を図っている。保護者の方に活動時の様子を共有したり、連絡帳を通して困りごとの把握ができている。送迎時や電話、保護者の来所などで密に情報共有を行っている。連絡帳を用いて伝えている	保育所・幼稚園等との交流機会をさらに充実させ、地域の子どもたちとの自然な関わりを増やす。交流活動の記録を残し、インクルージョン推進の効果を評価する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	2	2	3	保護者様からの質問がある際は、外部の研修会など必要な情報の提供に努めている。インスタやチラシなどで情報提供を行っている話をする時がある	連絡帳・面談・送迎時の対話を通じた保護者との情報共有をさらに充実させる。子どもの発達状況を定期的に保護者と確認し合う機会を設け、共通理解の深化を図る。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	0	4	主に児発管が行っている。契約時や懇談時に行っている入社したばかりなのでそこに携わったことがない	ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムの実施機会を拡充する。保護者が参加しやすい研修・情報提供の形式を検討し、家族全体の対応力向上を支援する。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	2	必ず面談での聞き取りを行い、意向確認を行っている。懇談時に意向を確認している話し合いをする時間を儲けている	契約時・懇談時の説明内容を標準化し、すべての保護者に丁寧かつ漏れなく情報提供できる体制を整える。説明内容の理解度を確認するフォローアップの仕組みを設ける。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和　8年　3月　6日

公表：令和　8年　3月２８日

事業所名　　にこにこ園

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	6	0	1	行っている。児発管が保護者に説明し同意を得ているそれに伴いサポートしている	保護者・子どもの意向確認の方法を充実させ、計画作成プロセスへの参加を促進する。意向確認の記録を計画に明示し、支援の方向性に確実に反映させる。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	0	連絡帳などを使用し聞き取り。面談が必要な場合は設定している。対応した職員は、保護者の困りごとや主訴を他の職員に共有することができている。必要に応じて児発管やその他スタッフ、専門職から助言の機会があれば行っている必要に応じ的確に行っている	計画説明の際に視覚的な資料を活用し、保護者が内容を理解しやすい工夫を継続する。同意取得のプロセスを記録し、計画変更時にも確実に同意を得る手順を徹底する。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	2	2	3	必要な際は保護者説明会などを行っている。コロナ化から父母会の話が立ち消えている。イベント等でその様な場面がある	家族からの相談に対応できる体制を強化し、必要に応じて専門職や外部機関と連携できる仕組みを整備する。相談内容を記録し、支援計画の改善に活用する。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0	1	スタッフが聞き取った内容を児発管へと繋げて対応を行なっている。事業所の長が対応している保護者のタイミングに合わせ迅速に行動している	父母の会や保護者会の開催を検討し、保護者同士が情報交換・交流できる機会を設ける。きょうだい児への支援も含めた家族全体へのアプローチを強化する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	0	ブログなど 様々なSNSツールの活用を行なっている。ホームページ、 ブログを通して日々の活動を保護者の方が見ることができるようになっている。月に一回は 事業所でどのようなことを行っているのかを発信したりインスタやブログで発信している毎月ブログを更新し配布している	相談・申入れへの対応体制をさらに整備し、対応手順を全職員で共有する。保護者への周知方法を見直し、相談しやすい環境づくりを継続する。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	0	書面などは鍵のかかるロッカーに必ずしまい、個人情報につながるものは外部に漏らさないように日々注意を払っている。ブログに掲載する際は許可が取れているかの確認を徹底している。法令で決められている個人情報の保護について厳守している当たり前だが社外で会社の話をしない	ブログ・インスタ・HPを活用した情報発信を継続し、発信内容の充実と定期更新を維持する。保護者が必要な情報にアクセスしやすいよう、発信方法の改善を継続的に検討する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	0	絵カードなどの活用や、視覚的支援など必要に応じて行なっている。子どもに対しては、ジェスチャーやイラストなどで対応をしている。一人ひとりにあった対応をしている。視覚支援等を用いながらそのお子さんに合った情報伝達を行っているその子に合わせたサポートをしている	個人情報保護に関する研修を定期的に実施し、全職員の意識向上を図る。個人情報の取扱いに関するマニュアルを見直し、SNS等での情報管理ルールを徹底する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2	2	3	地域サロンの開催など、地域との交流を行なっている。地域の子供会にも声をかけたが一緒にクリスマス会をすることはできなかった。入社したてで分からない	視覚支援・ジェスチャー・絵カード等の活用をさらに充実させ、すべての子ども・保護者が情報を受け取りやすい環境を整備する。個別の特性に応じたコミュニケーション方法を継続的に検討する。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0	2	様々なシチュエーションを想定して訓練を行なっている。避難訓練にて、災害や緊急の事態が起きたときを想定して訓練を行っている。研修や講習を行っている日々確認訓練をしている	地域住民を招待するイベントの開催を継続・拡充し、地域との交流機会を増やす。地域サロンや子ども会との連携を強化し、インクルーシブな地域づくりに貢献する。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	1	研修や訓練を行なっている。定期的に避難訓練を行っている訓練を行っている	各種マニュアルの定期的な見直しと更新を行い、最新の法令・指針に対応した内容を維持する。訓練の実施記録を残し、課題を次回の訓練改善に反映させる。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和　8年　3月　6日

公表：令和　8年　3月２８日

事業所名　　にこにこ園

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	0	聞き取りシートを 活用し、行なっている。利用者のプロフィールを確認し、職員で共有できている。特にアレルギーのお子さんがいるので気を付けている確認、報告、対策をしている	BCPの内容を定期的に見直し、地域の災害リスクに対応した計画を維持する。避難訓練の結果を記録・分析し、改善点を次回の訓練に反映させる体制を整える。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	1	午睡が行うことができるスペースや、場合によっては小部屋が使えるようになっており、状況に合わせて臨機応変に対応することができる。デイルームでの音がストレスになっているお子さんがいるときには別の部屋を使用して静かな環境に誘導できるようになっている。午睡室なので、個別の部屋を設けることによって、感覚過敏のお子さんも過ごしやすいような環境になっている。お昼寝や、熱、感染症など急なことに対応できるお部屋空間がある	服薬・アレルギー・てんかん等の情報を定期的に更新し、全職員が最新情報を把握できる体制を整備する。個別の医療的ケアが必要な子どもへの対応手順を明確化し、緊急時に迅速に対応できるようにする。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	0	医師の指示書に基づき、アレルギー対応食の提供や除去食の管理を徹底している。スタッフ全員でアレルギー情報を共有し、誤食防止の取り組みを行っている。	アレルギー対応マニュアルを定期的に見直し、医師の最新指示書に基づいた対応を徹底する。アレルギー情報の共有方法を改善し、誤食事故ゼロを継続する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	2	安全計画を作成し、定期的な安全管理研修と訓練を実施している。ヒヤリハット事例を収集・共有し、事故防止に努めている。	安全計画の内容を定期的に見直し、実効性のある安全管理体制を維持する。研修・訓練の内容を充実させ、全職員が安全管理の意識を高く持てる環境を整備する。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	3	0	4	安全計画の取り組み内容について、懇談や書面を通じて保護者へ説明を行っている。	安全計画の取り組み内容を保護者へ定期的に周知する機会を増やす。保護者との連携を強化し、家庭でも安全への意識が高まるよう情報提供を充実させる。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	2	ヒヤリハット事例を記録・収集し、定期的にスタッフ間で共有している。事例をもとに再発防止策を検討し、安全な支援環境の維持に努めている。	ヒヤリハットの記録・共有をさらに徹底し、再発防止策の実施状況を定期的に確認する。ヒヤリハット情報を安全計画の改善に積極的に活用する仕組みを整備する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	1	虐待防止に関する研修を定期的に実施し、不適切な関わりを防ぐための職員教育を行っている。虐待防止マニュアルを整備し、通報・対応手順を全職員で共有している。	虐待防止研修の内容を充実させ、全職員が適切な対応方法を習得できる体制を整える。虐待防止マニュアルを定期的に見直し、最新の法令・指針に対応した内容を維持する。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0	2	やむを得ず身体拘束を行う場合の基準・手順を組織的に決定し、保護者への事前説明と同意取得を徹底している。身体拘束は最終手段として位置づけ、代替方法の検討を優先している。	身体拘束に関する基準・手順を定期的に見直し、より適切な対応方法の検討を継続する。身体拘束ゼロを目指した支援環境の整備と職員教育を推進する。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 8年 3月28日

事業所名　にこにこ園　　保護者等数(児童数)21名　回収数20件　割合 95.2%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	0	0	1	いつも保育園にいる時より楽しそうです。	お子さんが楽しく過ごしていただけているとのお声をいただき、大変嬉しく思います。引き続き、子どもたちが伸び伸びと活動できる環境づくりに努めてまいります。活動スペースの確保と整備を継続し、一人ひとりが安心して過ごせる空間を維持します。
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	15	0	0	5	問題ないと思いますが、実際の様子を見ていないので分からないので。よく様子を聞かせていただけて安心感があります。	ご安心いただけているとのお声、ありがとうございます。実際の活動の様子については、連絡帳やお迎え時の声掛けを通じて、引き続き丁寧にお伝えしてまいります。保護者の方が安心して通所していただけるよう、日々の様子共有をさらに充実させます。
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	1	0	3	開放感があると思います。	開放感があるとのご評価をいただき、ありがとうございます。今後も子どもたちが過ごしやすい環境を維持しながら、視覚的な支援（マークやイラスト等）を活用し、お子さんが自分で行動しやすい構造化された環境づくりをさらに充実させてまいります。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19	1	0	0	綺麗な建物だと思います。	清潔感を感じていただけているとのお声、大変ありがとうございます。今後も毎日の清掃・消毒を徹底し、子どもたちが清潔で心地よく過ごせる環境を維持してまいります。感染症予防にも引き続き取り組み、安心して通所いただける施設運営を続けます。
適切な支援の提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18	0	0	2	園や家庭での困り事等 いつも迅速に対応して頂けて、少しずつ場を重ね成長する息子の様子を知る事が出来ています。ありがとうございますよく相談に乗ってくれるし、色々アドバイスもしてくれて助かっています。親である私が何をすればいいのか分からないことが多く、指導があっているかの判断ができかねる	ご家庭や園での困りごとへの迅速な対応にご満足いただけているとのお声、ありがとうございます。一方、「支援の方向性が合っているか判断しにくい」というご意見も真摯に受け止めております。今後は、支援の目的や効果をより丁寧にご説明し、保護者の方が支援内容を理解・確認しやすい機会（面談・連絡帳等）を充実させてまいります。ご不明な点はいつでもお気軽にご相談ください。
	⑥	事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	16	0	0	4		
	⑦	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	19	0	0	1	よく話を聞いてくれて反映してくれています。	ご意見をしっかりと計画に反映できているとのお声をいただき、ありがとうございます。今後も保護者の方との丁寧な懇談・聞き取りを継続し、お子さんと保護者のニーズを的確に把握した上で、より質の高い個別支援計画の作成に努めてまいります。
	⑧	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17	0	0	3		
	⑨	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19	0	0	1		
	⑩	事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	1	0	5	いつも通所を楽しみにしている様子より様々な活動を提供して頂けて感謝です	お子さんが通所を楽しみにしてくださっているとのお声、大変嬉しく思います。今後も季節や行事に合わせた多様な活動プログラムを提供し、子どもたちが毎回新鮮な気持ちで参加できるよう工夫してまいります。音楽・運動・創作・戸外活動など、5領域のバランスを意識した充実したプログラムを継続します。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	⑪	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	0	3	11		
	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19	0	0	1		
	⑬	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19	0	0	1		
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング（※5）等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	2	2	8		
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19	1	0	0		
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	0	0	2		
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19	0	0	1	悩んでいる内容を職員さんと共有し、それに対しての対策やアドバイスなどをもらい、共に意見交換しながら支援していただいている。特にないです様々な分野の専門的知識や療育のプロにまかせれるし頼れる安心感があります十分な支援を受けています。悩みを共有でき、支援をしてくださる 子供の事を理解して支援していただいています。いつも優しく声掛けしてくれます。連絡帳に質問や悩みを記入をするとお迎えの際に話を聞いてもらえるのでとても心強くありがたいです。とても良くしていただいていると思います。されていると思います。どんなお話をしても子供の気持ちを受け止めて、尚且つ保護者の気持ちも受け止めて貰える事にすごく助けられています。できたことをたくさん見つけ認めてくださっていると思います。困っていることなど相談すると、親身になってアドバイスや対応方法などを一緒に考えて頂いています。帰宅後、今日の出来事などを楽しそうに教えてくれるので安心して通えていると思います。素晴らしく支援をなされています。面談時はよくお話を聞いてくださいます伝えたい事は伝えられる環境にある支援されています。共感してもらっているこどもの苦手分野やここをこうしてほしいといった相談も柔軟に対応してくれます。	職員との信頼関係を築いていただき、多くの温かいお声をいただきありがとうございます。保護者の方が安心して悩みを相談できる環境を大切にし、今後も連絡帳・面談・お迎え時の対話を通じて、保護者の気持ちに寄り添った支援を継続してまいります。専門的知識を活かしながら、お子さんと保護者の双方を支えられるよう職員一同努めます。
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	0	2	7	保護者会など開催されれば是非参加したいです。	保護者会への参加希望のお声をいただき、ありがとうございます。保護者同士が交流・情報交換できる場の必要性を認識しております。今後、保護者会や交流イベントの開催に向けて具体的な検討を進め、参加しやすい形での実施を目指してまいります。開催の際はぜひご参加ください。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20	0	0	0		
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17	1	0	2		
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	17	0	0	3		
	㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	0	0	0	十分配慮されていると感じています。特にないですスタンプ等個人を特定できない配慮に安心できます問題ない。写真など顔を隠したりなど注意されていると思います個人情報が漏れてしまった等の報告は受けていません。プライバシーの保護がされていると思います。特別気になることはありません。きちんと説明してくれます。されていると思います。そうであると思います。お便りの写真に写っている子どもの顔が見えないようになっていたので、配慮されていると思いました。写真など載せる時も隠してあったり、個人情報の取り扱いは注意して頂いていると感じます。特に問題ないと思います。注意されてると思います。特に気になったことはありません最初に説明があったからされています。だと思う十分配慮されていると思います。	個人情報の取り扱いについてご安心いただけているとのお声、大変ありがとうございます。今後も写真掲載時の顔隠し処理・書類の施錠管理・SNS投稿時の事前確認など、個人情報保護の取り組みを継続してまいります。定期的な職員研修を通じて、全スタッフの個人情報保護意識の維持・向上に努めます。
非常時等の対応	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16	0	0	4		
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17	0	0	3		
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	18	1	0	1		
	㉖	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	0	1	3		
満足度	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか 。	20	0	0	0		
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	18	0	0	1		
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	20	0	0	0		

（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	アシストⅡにこにこ園			
○保護者評価実施期間	Ｒ７年　４月　１日	～	Ｒ８年　３月３１日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	21	（回答者数）	20
○従業者評価実施期間	Ｒ７年　４月　１日	～	Ｒ８年　４月　１日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	Ｒ　８年　３月　６日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的支援員として公認心理士が常勤配置されており、さらに法人内には言語聴覚士や理学療法士など他の専門職も在籍している。	公認心理師が常勤しているため、日々の療育の中で生じる課題に対して即座に相談・対応できる体制が整っています。また、心理学的な視点・発達段階に基づいた個別支援プログラムの立案やアプローチを実践しています。	法人内には他にも言語聴覚士・理学療法士がいるので、言語面で支援が必要な方に専門的な目線から支援方法の提案をしてもらえるようにしていきたい。
2	・法人の事業所がすべて近隣にあります。年齢ごとに分かれており、年の近いお子さんでの関わりを重視しております。未就学の事業所・小学生中心の事業所・中高生中心の事業所に分かれています。	・年齢ごとに分かれていて体格差が少ないため、保護者の方には安心していただけることが多いです。また怪我のリスクも少ないです。避難訓練やクリスマス会等で法人内の他事業所と関わることができます。２階には中高生の事業所、向かいには小学生の放デイ・B型作業所があり、いつでも連携が取れる体制です。	・年齢が近いことにより、自然とコミュニケーションを学び、社会性をはぐくむことができます。 ・同年齢のお友達と同じように活動に参加することで、自分にもできることがあると実感し、自信につながります。 ・異なる個性を持つ子ども達と触れ合うことで、多様性を理解し、尊重する心をはぐくむことができます。みんなが一緒に楽しく学び、成長できる環境をこれからも作っていきます。
3	今年度は2歳から年中までの利用者が中心であり、年齢や発達段階の近い子どもたちが多数在籍しているため、同年代の集団活動が活発に行えます。	同年代の子どもたちが集まる環境を活かし、共同遊びや協調遊びを日々のプログラムに積極的に取り入れています。年齢の近い仲間と関わる中で、自然と仲間意識が芽生え、集団行動のルールや順番待ち、他者との関わり方を実践的に学べるよう支援しています。	今後も同年代の集団という強みを最大限に活かし、小集団でのプロジェクト型遊びやグループワークを導入することで、子どもたち同士の相互作用をさらに促進していきます。また、集団の中での個々の役割や成功体験を積み重ねることで、就学に向けた社会性と協調性の基盤をより強固に育成していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や家族参加型イベントの開催が少なく、保護者同士の交流の機会が不足している。	コロナ禍以前は不定期で保護者会を開催していましたが、感染症対策の観点から開催を見送る状況が続き、その後も再開のタイミングを逸してしまっていたためです。	今年度は法人全体での保護者会開催を計画するとともに、未就学児を対象とした当事業所単独での小規模な懇談会や交流会の開催も検討します。保護者同士が悩みを共有し、情報交換ができる安心の場を提供していきます。
2	年齢別に事業所が分かれている特性上、日常的な異年齢交流や、障害のない地域の子どもたちとの交流機会が限られている。	年齢別編成は安全面や発達段階に合わせた支援において大きな利点がある反面、年上の子が年下の子を思いやる経験や、多様な背景を持つ人々との関わりを日常の中で自然に持つことが難しいためです。	地域のイベントやボランティア活動への積極的な参加を促し、多様な年齢層や地域住民と触れ合う機会を創出します。また、法人内の他事業所との合同イベントを定期的に企画し、安全な環境下での世代間交流やインクルーシブな関わりの場を設けていきます。
3	法人内に複数の専門職（公認心理師、言語聴覚士、理学療法士）が在籍しているが、その専門的な知見を全スタッフの日常的な支援スキルとして定着させるための体系的な仕組みがまだ不十分である。	専門職への個別相談やケースごとの対応は迅速に行われているものの、日々の業務に追われ、専門職が講師となるような定期的な内部研修や、全スタッフ向けの体系的なスキルアップの時間が十分に確保できていないためです。	専門職（心理・言語・理学療法）による定期的なケーススタディやミニ研修会を事業所内で開催し、専門的なアセスメント手法や支援技術を全スタッフで共有します。これにより、事業所全体の支援の質を底上げし、どのスタッフも一定水準以上の専門的視点を持った療育を提供できる体制を構築します。